



心から学びを楽しむ授業を目指して

校長 山口 浩二

◆本校の研究授業にて

先日、校内の2つの教室で研究授業が公開されました。どちらも話し合いでしたが、発言者は自分の考えをしっかりと説明しており、周りの子供たちも静かに発言者の意見を聞いている様子が見受けられました。その一方で、考えをもっていても挙手できない子供、指名されても「忘れました・・・」と自分の意見を表明できない子供のことが少し気になり、もったいないなあ、なんとか自信をもたせてあげたいなあと思いながら見ていました。担任も授業が思うように進まない焦りからか、同じ子供にばかり質問を投げかけてしまうようになっていきました。

日々の授業は、話し合いだけでなく、プリント学習やグループ学習など様々な形態で進められているのですが、本校の研究授業では主にクラス全体の「話し合い」場面を公開するようにしています。それは、集団による学びの場を重要視しているからです。とはいっても、話し合いは教師が一方的に講義をする時間ではないので、思うように子供たちの意見が出ない場合や予期せぬ子供の発言があった場合など、指導者としての力量（即時対応力や柔軟性）が試される難しさもあります。

さて、研究授業を終えた担任が放課後に校長室をたずねてきました。「話し合いがうまくいきませんでした・・・」と残念そうな表情をしていたので「〇〇先生のクラスの子供たちは、教材文をよく読み込んでおり、一人一人がしっかりと考えをもっていたことが分かりましたよ!」と伝えました。担任は「そんな子供たちの考えをうまく広げてクラス全体の学びにつなげれたらよかったのですが・・・」と自身の発問や切り返しがいかにうまくいかなかったもどかしさを訴えつつ、これからの授業改善に向けて課題が明らかになってきたという手応えも感じているようでした。

◆学びにひたる授業

優か劣か そんなことが話題になる、そんなすきまのない つきつめた姿。
持てるものを 持たせられたものを 出し切り 生かし切っている そんな姿こそ。
優か劣か、 自分はいわゆるできる子なのか できない子なのか、
そんなことを 教師も子どもも しばし忘れて、 学びひたり 教えひたっている、
そんな世界を 見つめてきた。…………… *大村 はま「優劣のかなたに」より



本校の教員は、子供一人一人をしっかりと見つめることを心がけ、その子の学力や体力などを的確に把握することに努めています。それは、決して子供たちを順位付けたり、優劣を決めたりするためではありません。むしろ、個に応じた適切な支援を行うためであり、互いの存在を尊重し合い、安心して自己表現し合える教室を作りたいと思っているからです。私たちは、優劣に関係なく学びに浸りきるような時間、子供たち同士が心から学びを楽しむことができるような授業を目指して研究に努めています。これからも子供たちと共に「思いやり」「学び」「元気」いっぱいの新庄小学校となるよう励んでまいりますので、保護者の皆様におかれましてもお子様たちへの励ましのお声掛けと学校へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。